

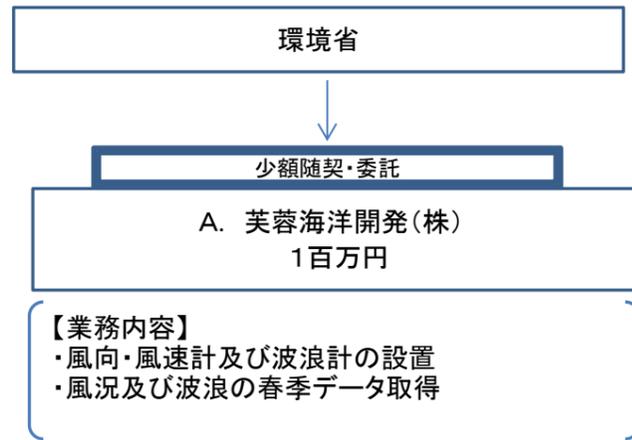
平成24年行政事業レビューシート

(環境省)

事業名	洋上風力発電実証事業	担当部局庁	地球環境局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成23~27年度	担当課室	地球温暖化対策課	調整官 和田篤也			
会計区分	エネルギー対策特別会計 (エネルギー需給勘定)	施策名	1-2 国内における温室効果ガスの排出抑制				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	特別会計に関する法律第85条第3項第1号ハ 特別会計に関する法律施行令第50条第7項第8号	関係する計画、 通知等	エネルギー基本計画、新成長戦略、 京都議定書目標達成計画				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国は排他的経済水域第6位の海洋国であり、洋上には陸上に比べて大きな風力発電の導入ポテンシャルを有していること、さらに洋上は風速が強く、その変動が少なく安定的であるために効率的な発電が見込まれるといったことから、洋上風力発電は有望な再生可能エネルギーとしてその実用化が期待されている。このうち水深が深い海域に設置可能な浮体式洋上風力発電は、我が国海域に非常に大きなポテンシャルがある。このため本事業では、我が国初となるフルスケールの浮体式洋上風力発電の実証試験を実施し、実用化に向けて必要な知見を得ることを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	長崎県五島市杵島沖において、平成24年度には100kW風車を搭載した小規模試験機を、平成25年度には2MWの風車を搭載したフルスケール実証機をそれぞれ1基設置・運転する実証事業を実施し、平成28年度の実用化に向けて必要な知見を得る。具体的な年次計画は以下のとおり。 ○気象・海象・環境影響調査(平成23~27年度) ○試験機及び実証機の詳細設計・建造(平成23~25年度) ○試験機及び実証機の実海域設置・実証運転(平成24~27年度) ○事業性等の評価(平成27年度) 平成25年度においては、実証機の実海域への設置・運転及びそれに合わせた小規模試験機の撤去を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算	-	-	582	3,048	1,600
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	△ 581	581	-
		計	-	-	1	3,629	1,600
	執行額	-	-	1	-	-	
執行率(%)	-	-	100%	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (32年度)
	浮体式洋上風力発電によるCO2の削減量	成果実績	t-CO2	-	-	0	150,000
		達成度	%	-	-	0	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	設備容量	活動実績 (当初見込み)	kW	-	-	0	-
					(-)	(0)	(100)
単位当たり コスト	- (円/ -)	算出根拠	平成23年度には発電を行っておらず、成果実績がゼロのため、算出できない。				
平成24・25年度 予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	二酸化炭素排出抑制対策 事業等委託費	3,048	1,600	平成24年度予算において2MW実証機の建造が完了するため。			
	計	3,048	1,600				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	我が国初の本格的な浮体式洋上風力発電であり、民間が実証するには事業リスクが高すぎるため、国が実証する必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	平成23年度は企画競争により委託先を選定しており、競争性が確保されている。
	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	将来の導入目標は立てているが、各事業実施年度の目標は設定困難である。 また、平成23年度は発電を行っていないため、直接的なCO2の削減はない。 ※類似事業等 ○洋上風力発電等技術開発(経済産業省資源エネルギー庁):環境省事業とは、浮体の構造、風車の設備容量、環境条件等が異なる。 ○浮体式洋上風力発電施設の安全性に関する研究開発(国土交通省海事局):当該事業は研究開発であり、実証事業ではない。
	△	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名 ※右記のとおり	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	平成24年度に小規模試験機の設置・運転が開始されるなど、これまで概ね順調に事業が進められている。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	事業計画により引き続き効率的な事業実施に努めること		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
現状通り	洋上風況シミュレーションの精度向上には試験機を改修して再度使用するなど、効率的な事業実施に努める。		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	-	平成23年行政事業レビュー	新23-017

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者について 記載する。費目と使途の双方 で実情が分かるように記載)	A.芙蓉海洋開発(株)			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	業務費	人件費、旅費、傭船費、消耗品費、外注費、消費税	1			
	計		1	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	芙蓉海洋開発(株)	風向・風速計、波浪計の設置及び風況、波浪の春季データ取得	1	少額随契	—